

# 接近NO! 餌付けNO!!

人がつくる新たな環境リスク～野生動物と共生するための知識とスキルを、私たちはどう共有し実践していくのか～

12月6日(日)オンライン開催  
10:00～17:30 (※9:30からアクセス可)

参加お申込みは、QRコードから専用フォームにアクセス!!



<https://kitanetforum2020.peatix.com>

北海道環境活動交流フォーラム2020



さいとう けいすけ  
**齊藤 慶輔** keisuke saito  
(猛禽類医学研究所 代表、獣医師)

日本獣医畜産大学野生動物学教室卒業。1994年より環境省釧路湿原野生動物保護センターで野生動物専門の獣医師として活動。2005年に同センターを拠点とする猛禽類医学研究所を設立。傷病・死亡原因を徹底的に究明し、予防のための生息環境の改善を「環境治療」と命名し、活動の主軸としている。



いしなざかつよし  
**石名坂 豪** tsuyoshi ishinazaka  
(公財財団法人知床財団 主任研究員)

1973年東京都生まれ。獣医師、博士(獣医学)。学生時代から海生哺乳類(鯨類)の研究で知床に通い、2006年より知床在住。狩猟免許も持ち、ヒグマ・エゾシカなどの大型哺乳類を中心とした野生動物管理対策に従事。共著に「生態学からみた野生動物の保護と法律」、「日本のシカ」、「となりの野生ヒグマ」など。



いけだ たかこ  
**池田 貴子** takako ikeda  
(北海道大学高等教育推進機構 CoSTEP 特任助教)

1980年神奈川県出身。北海道大学大学院獣医学研究科博士課程修了・博士(獣医学)。専門は都市部に生息するキタキツネの生態学。科学技術コミュニケーション教育・研究の一環として、学生らとエキノコックス予防策の社会実装に取り組む。2018年からは、沖縄科学技術大学院大学と協同でヒアリの教育パッケージも開発中。



あいこう てつや  
**愛甲 哲也** tetsuya aiko  
(北海道大学大学院農学研究院 准教授)

1967年鹿児島県生まれ。専門は造園学、特に公園の計画・管理。自然保護地域におけるレクリエーション利用のモニタリングとその管理、地域や市民との協働による自然公園、都市公園の管理のあり方について研究。著書に、『自然保護と利用のアンケート調査』(築地書館)、『利用者の行動と体験』(古今書院)



うかい しょうた  
**鵜飼 匠太** shota ukai  
(環境省釧路自然環境事務所 自然保護官)

1995年生まれ京都府出身。2018年環境省入省。現在、環境省釧路自然環境事務所道東の野生動物、国立公園等を担当し、希少種保護や野生動物観光の面から餌付け問題の対策にも携わる。地域振興と自然環境保全がどのように繋がるか、地域の方々と模索し、施策を進めることが現在の仕事の醍醐味。教育系NPOを兼業し、東京、神奈川、北海道釧路で教育活動にも関わる。



はしもと かずひこ  
**橋本 和彦** kazuhiko hashimoto  
(北海道環境生活部環境局自然環境課 主幹 (生物多様性戦略))

1966年北海道生まれ。1989年帯広畜産大学卒業(ナキウサギの貯食調査)。1990年～青年海外協力隊員としてドミニカ共和国派遣(ウサギの飼育指導)。1992年～野外科学株式会社。1993年～北海道庁(野生動物～自然公園管理)。2014年～環境省生物多様性地球戦略企画室。2017年道庁に戻って2020年より現職。



おがわ いわお  
**小川 巖** iwao ogawa  
(エコネットワーク 代表)

1992年から身近な自然を生かした地域作りや自然を楽しむプログラム開発と普及にあたる「エコ・ネットワーク」代表。北海道自然環境分野やフットパス(歩く道)の第一人者として各種委員の他、日本各地で講演活動やフットパスウォーク等を実施している。日本フットパス協会理事、フットパス・ネットワーク北海道(FNH)事務局長も勤める。「あなたはクマやハチと共存できますか?」など著書も多数。



やまもと まき  
**山本 牧** maki yamamoto  
(NPO法人もりねっと北海道 代表)

1955年、福井県生まれ。祖父に山仕事を教わる。74年、北海道大学入学。ヒグマ研究グループに入り、クマに森歩きを教わる。81年、大学院中退、北海道新聞入社。社会部次長、編集委員など。2010年、退社しNPOもりねっと理事。ヒグマの会副会長。



ぬまた ひろみつ  
**沼田 博光** hiromitsu numata  
(北海道テレビ放送 報道部)

1964年札幌出身、小樽商大卒。北海道テレビ放送にて報道部記者、情報番組等を担当し、現在は報道部デスク。環境問題やヒグマ、サケ、オオワシなどの野生動物、アイヌ民族関連のドキュメンタリー番組を制作、最近では長沼町の農民がタンチョウを呼び戻す5年間に番組化した。ギャラクシー賞、国際環境映像祭など受賞作品多数。



きたネットフォーラム2020 コーディネーター



はせがわ おさむ  
**長谷川 理** (NPO法人Envision環境保全事務所、きたネット理事)  
神戸市出身。北海道大学大学院地球環境科学研究科博士課程修了・博士(地球環境科学)。鳥類を中心に、希少種から外来生物まで様々な野生動物の調査研究や対策業務に従事。コロナ拡大前までは、道内各地でトークイベントや市民フォーラムなどの普及啓発活動を企画・開催していた。趣味は犬の散歩。2020年からきたネット理事。



うちやま たけし  
**内山 岳志** takeshi uchiyama  
(北海道新聞記者)

1978年横浜市出身。北大大学院工学研究院環境工学科で廃棄物管理工学を専攻。2004年に道新入社。中標津支局では世界自然遺産登録された知床やラムサル条約に登録となった野付半島などで環境をテーマに取材。現在は札幌でヒグマや核ごみ問題などを担当。休日はバスケットや山歩きでストレス発散中。



さとう ふたみ  
**佐藤 ふたみ** futami sato  
(北海道子育て世代会議事務局長 黒松内ぶなの森自然学校)

北海道釧路市生まれ。高校まで釧路で育ち、山形大学農学部生物環境学科で森について学ぶ。2010年から4年間黒松内ぶなの森自然学校、NPO法人ねおすのスタッフとして勤務。疲れ果てて一度退職。ニート生活、海外放浪などを終り、2019年から再び黒松内へ。子どもの自然体験活動や森林療法の活動に携わる。



よしざわ まや  
**吉澤 茉耶** maya yoshizawa  
(北海道子育て世代会議)

奈良県生まれ、2002年北海道へ。大学では淡水魚を通じて北海道の自然を学ぶ。2009年アラスカ大学へ留学、国立公園における野生動物やアウトドアレクリエーションの管理について学ぶ。クマ対策の世界に。ツキノワグマの保護管理やヒグマ調査に関わった後、2013年島牧村へ移住し子育てに励む。2018年の島牧ヒグマ騒動を経て現在知床財団勤務、人とクマがもっとハッピーになる仕組み作りを目指し活動中。地域間ネットワーク「くまのわ」構築プロジェクト実施中。

## 北海道子育て世代会議

2020年8月27日設立 分断ではなく「調和」対立ではなく「対話」正誤ではなく「選択」"持続可能な社会を未来ある子どもたちへ" わたしたちは子どもたちに残したい地球のために時に繋がり、時に声を上げ、時に対話します。否定や反発から生まれるエネルギーではなく、子どもたちが楽しく幸せに生きる地球にしたいというエネルギーをもとに活動している。寿都町への高レベル放射性廃棄物最終処分場誘致の文献調査応募に対し撤回を求めることをきっかけに設立。  
[https://peraichi.com/landing\\_pages/view/kosodatesedai](https://peraichi.com/landing_pages/view/kosodatesedai)

TIME TABLE

9:30～ONLINE アクセス開始  
10:00～INTRODUCTION

10:10 **接近NO!餌付けNO!!**  
～12:20 **の必要性を知る**

基調講演1

▶ **人と野生動物、それぞれの命を守る距離がある**  
講師/齊藤 慶輔さん

基調講演2

▶ **ヒグマに対する、意図しない餌づけ行為の危険性**  
講師/石名坂 豪さん

(12:20～13:20 休憩)

13:20 **接近NO!餌付けNO!!**  
～17:00 **実現のために**

【コーディネータ】

長谷川 理さん、池田 貴子さん

13:30～餌付けに対する価値観・自然観の多様さ、共通認識をどこにおくか  
愛甲 哲也さん

【テーマセッション1】

14:05～餌付け問題にどう取り組む?  
～産官学民の連携プラットフォームをつくらう～

【話題提供・パネリスト】

鵜飼 匠太さん、橋本 和彦さん、小川 巖さん

【パネリスト】

斎藤 慶輔さん、愛甲 哲也さん

【テーマセッション2】

15:40～餌付けのリスクをどう伝える?  
～餌付けNO!報道ガイドラインを提案しよう～

【話題提供・パネリスト】

山本 牧さん

【パネリスト】

池田 貴子さん、石名坂 豪さん

沼田 博光さん、内山 岳志さん

活動紹介

17:00～ **環境活動の新しい世代を応援しよう。**  
北海道子育て世代会議  
佐藤ふたみさん・吉澤茉耶さん

17:20～ENDING(17:30終了)

参加申込み方法

①専用フォーム(QRコード)からお申込み(12/3締切)

<https://kitanetforum2020.peatix.com>

事前申込み要・WEBの専用フォームからお申込みください。決済手続きの完了後、申込完了のメールをお送りします。※お支払方法は、事前決済(クレジットカード、コンビニ、PayPal)となります。

②FAXまたはEメールでお申込み

右記の申込書をFAXでお送りいただくか、必要事項をご記入の上、メールでお申込みいただき、右記口座に参加費を事前にお振込みください。ご入金確認後、申込完了のお知らせをお送りいたします。

参加申込書 12/3(木)締切り

FAX 011-215-0149 TEL 011-215-0148 E-mail office@kitanet.org  
振込先 北洋銀行 本店営業部(普)2292978 トクビ)ホツカイドウシミンカンキョウネットワーク

FAX、E-mail、電話でのお申込みも承ります。参加費は事前にお振込みください。

お名前(フリガナ)	所属団体・企業・職業・学校	
ご住所 〒	Tel	Fax
	E-mail	

※お寄せいただいた個人情報は、きたネットからのイベント等の案内以外には使用いたしません。

視聴方法

きたネットフォーラムはオンラインで開催します。お持ちのパソコンやスマホから、youtubeなどの動画再生ができれば、セミナーに参加できます。

参加～視聴手順

参加申込みをいただいた方には、開催日3日前までに、オンライン参加のためのURLや資料ダウンロード方法などを、E-mailでご連絡します。当日、メールの案内にしたがってアクセスして、ご視聴ください。途中の入退場や再入場も可です。

録画視聴

お申込みいただいた方には、後日録画をご覧いただくことができるURLをお知らせいたします。録画のみの視聴も可。当日見逃したプログラムも、後で見ることができます。

We love, We Save... きたネットとは

地球の森林の1/700が北海道にあります。多様な野生動物や植物がこの豊かな自然の中でいのちを育んでいます。「きたネット」は、この北海道の環境を守り、次の世代にひきついでいくために活動する、市民団体59団体(2020年11月現在)と、活動に賛同する個人や企業が所属する、環境活動のネットワークです。

参加申込み

NPO法人 北海道市民環境ネットワーク「きたネット」

〒060-0061 札幌市中央区南1条西5丁目8番地 愛生館ビル5階

Tel. 011-215-0148 Fax. 011-215-0149 E-mail. office@kitanet.org

きたネットWeb <http://kitanet.org> きたネットFacebook <https://www.facebook.com/kitanet.org>

一般財団法人 セブン-イレブン記念財団

本フォーラムは一般財団法人セブン-イレブン記念財団の助成をいただき開催いたします。



<http://kitanetv.blogspot.jp/>  
きたネットでは行事などの動画をインターネットで発信しています。本フォーラムの一部も後日録画配信を行う予定です。

■きたネットは、一般財団法人セブン-イレブン記念財団から助成を受け、市民の環境活動を支援する「市民環境活動支援協定」を結び、北海道の自然環境を子どもたちの未来へ引き継ぐために活動を行っています。